

自治医科大学附属さいたま医療センター 卒後臨床研修プログラム

GUIDE 2021

「専門研修プログラム対応」

Postgraduate Clinical Training Program



自治医科大学附属さいたま医療センター

センター長の挨拶

自治医科大学附属さいたま医療センター長

遠藤 俊輔



自治医科大学附属さいたま医療センターは東京に隣接した人口130万余の“さいたま市”にあり、さいたま市およびその周辺を含む埼玉県中央部における中核医療施設として市民病院的な役割を担っているとともに、大学病院としての高度専門医療の提供も重要な責務としています。平成元年に許可病床数200床の病院として自治医科大学附属大宮医療センターの名称で開設されましたが、平成13年に旧大宮市、浦和市、与野市が合併し平成17年には旧岩槻市も加わりさいたま市になったことから、当センターも平成19年7月にさいたま医療センターに改名いたしました。

当初は地域医療を支える自治医科大学の卒業生による総合診療の基幹病院としての役割と地元大宮市（当時）が切望していた急性期循環器疾患に対する高度先進医療の提供を中心としておりましたが、年々、循環器以外の領域についても最先端の高度医療の提供を求められるようになり、毎年のように増床を重ねて現在では許可病床数も628床となり、全ての専門分野において高度医療を提供する施設となりました。しかし、設立の目的の1つである総合医診療の実践と総合医の育成についての努力も脈々と続いており、大学病院では経験することの少ない所謂Common Diseaseの診療も決しておろそかにすることはなく、また一方では、大学病院として一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の技術を駆使した高度医療を必要とする症例に至るまでの多彩な疾患の診療に当たっております。

このように当センターが一般市民病院と大学病院の特徴を併せ持ち、極めて豊富な症例に対応していることは、専門医志向の医師からは必ずしも歓迎されない面もあり、また、病院経営としても非効率的と言わざるを得ないところも多々あります。しかし、病気はある特定の臓器の部分的な障害であることはむしろ稀であり、医師本来の役割としては例え専門医であっても患者の多様な訴えに対して基本的な対応はできなければならないことは言うまでもありません。また一方で、基本的な対応だけでは事足りず高度医療を必要とする場合も少なくなく、当センターのように広い裾野と幾つもの高い峰を抱える病院は、臨床研修という面でも稀有な価値を持つと確信しております。

自治医科大学はへき地などの地域医療に貢献する医師を育成する医科大学です。従って、本学卒業生は地域医療で活躍しておりますが、当センターの指導医の中にはそのような地域医療を長年経験してきた本学卒業生が多数おります。これらの医師達による理屈や理想論に留まらない実地経験に基づいた筋金入りの総合診療の指導が受けられるということも当センターでの臨床研修として特筆されます。これらの利点・特徴を生かして当センターでは現在の臨床研修制度義務化（平成16年施行）が始まる前の当センター開設当初よりスーパーローテーションによる初期臨床研修を行ってきました。同時に、大学病院としての高度先進医療においてもその充実に努め、開院当初より我が国でも屈指の技術と症例数により世に知られるようになった虚血性心疾患の診療にとどまらず、現在では、血液疾患の骨髄移植治療、耳鼻咽喉科の鼓室形成術、肝胆膵外科手術、肺がん手術、子宮内膜症の治療など、多くの分野で埼玉県下はもとより全国的にも高い評価を得るに至っております。また、平成22年度には地域周産期母子医療センターに認定され、平成26年度からは地域がん診療連携拠点病院の指定を受けるとともに、新たに精神科、救急科を標榜しました。救急医療については、平成28年に救命救急センターを開設するなど、ますますの充実に努めています。

このように、当センターでの研修は長年の地域医療の経験に基づいた総合診療の基盤に立つ指導とそれに続く高度専門医療の研修を可能にしていることなど多くの特徴をもつと自負していますが、中でもそれぞれの専門領域で第一線に立つ専門医たちが、自治医科大学の建学の精神に基づいて、総合診療の重要性を理解してそれぞれの専門領域という壁を立てずに研修の指導に当たっているということが最も大きな特徴と言えるでしょう。また、さらに良質な研修を提供できるように、意欲のある若い医師の期待に応える研修体制の改善に努力を続けております。多くの有能な研修医（レジデント）の参加を期待しております。



一般研修プログラム・ホスピタリスト重視プログラム責任者

卒後臨床研修室長

菅原 斉



自治医科大学附属さいたま医療センターは創立以来、総合医養成を主眼としたプログラムを全国でもいち早く取り入れ、一貫してスーパーローテーション方式の研修実績を積み上げてきました。大学病院では経験することの少ないCommon Diseaseの研修を決しておこなうことはなく、一方で、一般の市中病院では診られない稀有な疾患や最先端の医療技術を駆使した高度医療を必要とする症例にいたるまで多彩な疾患の診療に当たっています。

一般プログラムは、総合医学オープン、内科、外科、救急、外科系専門の5コースから選択できます。将来、皆さんが、どの専門診療科を専攻することになっても、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に適切に対応できるように、医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけるための研修構成になっており、5つの特色があります。

1. 厚生労働省指定の必修分野に加えて、**麻酔科研修を必修**としました。
2. **全ての内科**（循環器内科、消化器内科、脳神経内科、血液科、腎臓内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、内分泌代謝科、総合診療科）を研修します。
3. **地域医療と一般外来を並行研修の8週間**とし、Common diseaseの外来診療を十分に経験します。

4. 研修期間を通じて週1回（夜勤または休日日勤）程度の**救急研修を継続**することで、初期診療能力の足腰を鍛えます。

5. **オプション**は、皆さんが希望する研修内容を個別に取り入れるように柔軟に対応します。

ホスピタリスト重視プログラムは、2010年から開始された当医療センターとさいたま市民医療センター、または、2020年から開始された当医療センターとさいたま赤十字病院との「たすき掛け」プログラムで、都市での病院総合医や地域での総合医を目指している研修医に向いています。

入職時には、シミュレーション、シャドーイング、電子カルテ、ICLSなどの実習からなるきめ細かなオリエンテーションがありますので、臨床研修を円滑に開始できます。このような特色あるプログラムによって、「患者にとって最善をめざす総合医療」と「高度先進医療をめざす専門医療」の一体化とそれを実践する幅広い医学知識と技能を有し、深い人間性に基づいた優れた臨床能力を発揮できる医師を養成していきます。これらの研修プログラムは、卒後3年目以降の専門研修プログラムとも連動していますので、各専門医の取得だけでなく、社会人大学院や大学院への進学し、学位（医学博士）を取得することも可能です。当医療センターの研修医は、全国から集まります。様々な情報を各研修医間でも共有し、卒後臨床研修室との意見交換を通じて研修プログラムの見直しをおこなっています。豊かな経験と業績をもつ指導医、教職員が皆さんの研修を支援します。

小児科研修プログラム責任者

教授 市橋 光



プログラムの目標として子どもの総合医療、小児救急医療、新生児医療を実践できる十分な診療能力を備えることとしています。

特徴としては、

1) 小児救急医療と新生児医療の研修の重視

小児救急や新生児では臓器別ではなく、さまざまな臓器疾患の小児救急医療、新生児医療を行なわねばなりません。このため1つの臓器に偏ることなく、幅広い知識が必要となります。

現在、さいたま市小児救急医療の2次救急指定病院として週に2回の輪番業務を行なっています。希望するレジデントは指導医とともに当直研修を行なっていますが、この当直研修は小児救急医療の研修としてきわめて有用です。また、小児病棟の他、NICUを含む新生児病棟を有し、充実した新生児医療の研修ができます。

2) 超音波検査の実践

超音波検査は被曝がなく非侵襲的であり、小児領域では第一選択となるべき画像診断法です。しかし、多くの大学病院や小児病院では、専門スタッフが検査を担当しているため、レジデント自らが検査に従事して手技を学ぶ機会は少ないです。当センター小児科では最新の超音波診断装置を6台有し、上級医の適切な指導を受けながらレジデント自らが超音波検査を行なっています。

産婦人科研修プログラム責任者

教授 桑田 知之



自治医科大学附属さいたま医療センター産婦人科プログラムは、婦人科疾患を扱う「産婦人科」と、産科疾患を扱う「周産期科」の2科で構成されています。「周産期科」は「産科」と「新生児科」、「小児外科」で構成され、多くを学ぶことができます。産婦人科プログラムの指導者は、産科担当の教授、婦人科担当の教授計3名を中心に、数多くの疾患を経験したスタッフで組織され、懇切丁寧に、一人一人の研修医のペースにあわせながら指導しています。

埼玉県は人口比で全国一産婦人科医師数が少ない県として知られており、多くの産婦人科医師を必要としています。このため、必要医師数よりも患者数の方が多く、豊富な症例を研修医のうちに経験し、研修終了後は即戦力として活躍することができます。当センター産婦人科プログラムの特徴として以下の3項目が挙げられます。プログラムの最終目標として、産科学、婦人科学のいずれにも偏ることなく、産婦人科医療を実践するための十分な診療能力を身につけられるようにすることとしています。

1) 豊富な疾患を集学的に学ぶ

埼玉県の人口は、本院のある栃木県の人口の約3.5倍です。分娩数も3.5倍あり、さいたま市だけで栃木県に匹敵します。このため、多くの症例が当院に紹介されます。特に他科合併症を持つ患者が多く、他の診療科と協力して総合的な治療を行います。当センターは診療科毎の垣根も低く、他科医師からも多くのことを教えてもらえます。妊娠高血圧症候群の国内ガイドライン作成を担当した教授もあり、全体的な管理を学ぶことができます。産婦人科の知識だけでなく他科の知識をも集学した、総合的な治療を習得し、実践できるようになります。

2) 超音波出生前診断技法を習得する

当センターは埼玉県の胎児超音波遠隔診断の4拠点のうちの1つとなっており、診断に困る症例の相談窓口となっています。このため、多くの胎児診断を経験することができ、超音波の基本から応用まで学ぶことができます。担当教授は多くの超音波専門医を養成しており、専門医取得後の資格取得にも有利です。

3) 腹腔鏡手術手技を習得する

担当教授は、国内で腹腔鏡が導入され始めた頃から、腹腔鏡手術を行なっています。これまでに多くの腹腔鏡手術の技術認定医を養成しており、研修希望者も数多くいます。今や腹腔鏡手術は婦人科手術手技の基本となっており、これを研修医から学べる環境にあることは、大きなアドバンテージとなります。

一般研修プログラム 定員24名

一般研修プログラムには、総合医学オープンコース、内科コース、救急コース、外科専門医コース、外科系専門診療科コースがあります。どのコースも、将来の専攻科を決めていない場合にも応募できます。ここには、ローテーション例を示しています。ローテーション順は、研修医ごとに決められます。



1. 総合医学オープンコース

必須分野の内科、外科、救急科、精神科、産婦人科、小児科、地域医療および一般外来と麻酔科以外は、当医療センターの中の診療科から選択するオプションAです。

オリン テーション	救急 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (4週)	小児科 (8週)	オプションA① (4週) オプションA② (4週)	オプションA③ (4週) オプションA④ (4週) オプションA⑤ (4週) オプションA⑥ (4週)

2. 内科コース

総合医と専門医のバランスのとれた内科医の養成を目指しています。将来、内科専門医を目指している研修医は、J-OSLER（日本内科学会の症例登録システム）に登録できる最大症例数（80例）と最大病歴数（14例）を確保することも可能です。オプションBでは、当医療センター以外の協力研修施設も選択できます。

オリン テーション	救急 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)	内科選択① (4週)	内科選択② (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (4週)	小児科 (8週)	外科 (8週)	オプションA① (4週) オプションA② (4週)	オプションB① (4週) オプションB② (4週)

3. 外科専門医コース

日本外科学会専門医志望者（一般・消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）に最適なコースです。いずれの診療科も国内有数の手術症例数を誇り、周術期管理から基本手技まで十分なトレーニングが受けられます。本コースを選択することで、日本外科学会外科専門医取得に必要な症例を初期研修期間中に一部経験することができます。

オリン テーション	救急 (8週)	外科 (12週)	心臓血管外科 (8週)	呼吸器外科 (8週)	内科病棟① (8週)	産婦人科 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)	麻酔科 (8週) オプションB (4週)

4. 外科系専門診療科コース

外科系診療科の中でも眼科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・皮膚科・形成外科・整形外科・脳神経外科・麻酔科を志望する人に最適なコースです。研修開始時にどの専門診療科を選択するかを決めます。

オリン テーション	救急 (8週)	外科 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	麻酔科 (8週)	専門診療科 (12週)	オプションB① (4週) オプションB② (4週) オプションB③ (4週)

5. 救急コース

救急専門医を志望する人に最適です。当センターの救命救急センターは年間救急車搬送台数9,200台以上（2018年度実績）を有しており、救急医療全般に対応しています。コースは、急性期総合医療を目標に、内科系・外科系全般と外傷の診断・管理が幅広く学べるように構成しています。

オリン テーション	救急 (12週)	外科 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	脳外or整外 (4週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産婦人科 (4週)	内科病棟④ (8週)	ICU (4週)	麻酔科 (8週) オプションB① (4週) オプションB② (4週) オプションB③ (4週)

小児科研修プログラム 定員2名

小児科志望者に最適なプログラムです。産婦人科、麻酔科、外科、ICUは小児科研修に必修として研修することとしています。オプションは研修医の希望により、検査手技の習得や他の診療科目の研修を目的として、比較的自由に選択することができます。

オリエンテーション	救急 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	小児科 (12週)	ICU (4週)	麻酔科 (8週)	オプション① (4週) オプション② (4週) オプション③ (4週)

産婦人科研修プログラム 定員2名

産婦人科志望者に最適なプログラムです。ローテーションは順不同ですが、麻酔科、小児科、NICUなど、将来産婦人科医として必要な知識を習得できるプログラム内容となっています。産科8週、婦人科8週を重点的に研修することで、必要な手術手技の習得や、内診や超音波など産婦人科診療手技の基礎が習得できるだけでなく、全身管理の修練を積むことも可能です。多くの臨床例に立ち会う機会が得られ、充実した研修生活を送ることができます。

オリエンテーション	救急 (8週)	内科病棟① (8週)	内科病棟② (8週)	内科病棟③ (8週)	内科病棟④ (8週)	外科 (8週)
精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	小児科 (4週)	産科 (8週)	婦人科 (8週)	NICU (4週)	麻酔科 (8週) オプション① (4週) オプション② (4週)

ホスピタリスト重視プログラム 定員2名

地域のニーズに応える病院総合医として活躍したい研修医向きの市中病院との「たすき掛け」プログラムです。研修協力病院のさいたま市民医療センター、または、さいたま赤十字病院と連携しています。さいたま赤十字病院で受入可能な定員は1名です。

※たすき掛け協力型病院：さいたま市民医療センター

自治医科大学附属さいたま医療センター					さいたま市民医療センター				
オリエンテーション	救急 (8週)	内科病棟 (8週)	外科 (8週)		内科 (8週)	小児科 (8週)	内科 (8週)		
さいたま市民医療センター			協力型病院		自治医科大学附属さいたま医療センター				
救急 (8週)	選択① (4週)	選択② (4週)	精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	内科病棟 (8週)	麻酔科 (4週)	オプションA① (4週)	オプションA② (4週)

※たすき掛け協力型病院：さいたま赤十字病院

自治医科大学附属さいたま医療センター					さいたま赤十字病院				
オリエンテーション	救急 (8週)	内科病棟 (8週)	外科 (8週)		内科 (8週)	外科／産婦人科／ 内科(8週)	内科 (8週)		
さいたま赤十字病院			協力型病院		自治医科大学附属さいたま医療センター				
救急 (8週)	選択① (4週)	選択② (4週)	精神科 (4週)	地域・一般外来 (8週)	産婦人科 (4週)	小児科 (8週)	麻酔科 (4週)	オプションA① (4週)	オプションA② (4週)

主な留意事項（全プログラム共通）

- ※ローテーションはいずれも順不同ですが、地域医療・一般外来研修は2年目とします。
- ※採用後に行うオリエンテーション終了後は、第2クールのローテーションでの研修を開始します。
- ※救急科はブロック研修に加え、週1回の日当直研修を通年で実施します。
- ※外科は一般・消化器外科での研修が原則ですが、希望者は4週のみ心臓血管外科又は呼吸器外科での研修も選択できます。
- ※オプションAは、自治医科大学附属さいたま医療センターの診療科から選択します。
- ※オプションBは、協力型病院での研修も選択することができます。
- ※オプションは原則として4週間単位ですが、自治医科大学附属さいたま医療センターにおいて認められる診療科では、2週間単位の研修も可能です。
- ※必修の麻酔科研修が4週間のコース・プログラムでは、オプションでの麻酔科選択を推奨します。
- ※オプションでの同一診療科の選択は2クールまでとします。

❖ 総合回診・研修医セミナー

毎週水曜日午後4時に開催される総合回診は、当センター開設以来継続されています。

研修医が1症例に20分をかけてケース・プレゼンテーションを行い、プロブレムリスト、鑑別診断、必要な検査を検討した後、Q&A方式の考察が発表されます。内容の一部は「m3.com」の“研修最新線”に連載されています。

総合回診終了後には、各診療科の持ち回りでセミナーを開催しています。

研修医の臨床的な知識・技術の向上を目的とした20分間のセミナーで、臨床で研修医が直面した問題に対してどのように考えたら良いか、という視点も取り入れた内容となるよう工夫しており、Take Home Message「今日から使える知識」を伝えています。



執筆陣は初期・後期研修医とその指導医達で、総合回診で発表された症例・症候をまとめました。臨床推論に最適、実践的な書です。巻末にはFujimoto客員教授による症例提示法と臨床推論についての特別寄稿があります。

❖ Fujimoto客員教授（米国ワシントン州立大学内科名誉教授）によるケース・カンファレンス

英語で実施されるEBMを重視した臨床推論のカンファレンスです。1例に約1時間をかけて、プレゼンテーションの方法も学び、参加者によるPeer Reviewがなされます。

Fujimoto客員教授は1年に4回来日され、1回につき2週間滞在されます。

ケース・カンファレンス以外にも研修医とマンツーマンのClinical Clerkshipが適宜行われ、研修医は疾患のproblem listと鑑別診断アプローチへのプロセスを学びます。



❖ オリエンテーション（シミュレーション実習・ICLS）

採用後、各診療科・病棟での研修開始の前に約1週間かけてオリエンテーションを行います。

オリエンテーションでは点滴採血や腰椎穿刺、動脈穿刺、皮膚縫合、気管挿管等をシミュレーターを使用して先輩研修医から指導を受ける機会もあります。

また、オリエンテーションの一環としてICLS講習会を開催しています。指導医や先輩研修医、看護師等から1日かけて心肺蘇生術を学ぶことができ、研修医からも有意義な研修と高い評価を得ています。



❖ 北軽井沢研修

卒後2年目の研修医を対象とした研修会を自治医科大学北軽井沢山荘において開催しています。

この研修会は、指導医・上級医による進路相談（専門研修プログラム、各診療科の説明）及び臨床研修プログラムについての意見聴取を兼ねた研修会として企画しています。



❖ 協力型臨床研修病院・臨床研修協力施設

次の病院と協力して臨床研修を行います。

※「オプションB」では各病院で研修可能な診療科を選択することができます。

病院・施設名	所在地	研修を行う分野
さいたま市民医療センター	さいたま市西区	内科、救急科（ホスピタリスト重視プログラム）、小児科、選択科（オプションB）
さいたま赤十字病院	さいたま市中央区	内科、外科、救急科（ホスピタリスト重視プログラム）、選択科（オプションB）
社会福祉法人シナプス 埼玉精神神経センター	さいたま市中央区	精神科
埼玉県立精神医療センター	埼玉県 北足立郡伊奈町	精神科
順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院	埼玉県越谷市	精神科
医療法人社団輔仁会 大宮厚生病院	さいたま市見沼区	精神科
自治医科大学附属病院	栃木県下野市	精神科、選択科（オプションB）
秩父市立病院	埼玉県秩父市	地域医療（一般外来）、選択科（オプションB）
秩父市大滝国民健康保険 診療所	埼玉県秩父市	地域医療（在宅医療）
国保町立小鹿野中央病院	埼玉県秩父郡 小鹿野町	地域医療（一般外来、在宅医療）
JCHOさいたま 北部医療センター	さいたま市北区	地域医療（一般外来、在宅医療）
南魚沼市民病院	新潟県南魚沼市	地域医療（一般外来、在宅医療）



レジデントからのメッセージ

ジュニアレジデントの
出身大学一覧
(2004年～2020年)



一般研修プログラム・内科コース
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
安部 遥香先生



私は学生の時から内科に関心を持っていました。当センターの内科コースは内科全般をローテーションする、commonな疾患も経験できる、日々のカンファレンスや総合回診で発表・フィードバックの機会が多いことが特徴です。私は以上の理由から当センターでの研修を希望しました。

実際に研修が始まると分からないことばかりで戸惑いましたが、指導医の先生方が熱心に優しく教えて下さいました。また内科コースでは、内科だけでなく外科・救急・麻酔科・小児科・産婦人科などもローテーションします。それらの科で研修するからこそ理解できる考え方・手技もあり、常に多くのこと

を勉強させていただいています。さらに内科コースではローテーション先の自由選択枠が4枠あります。当センターのプログラムに協力して下さる他院の診療科も含めて選択肢がたくさんあり、研修医それぞれの考え方に応じてカスタマイズすることができます。

研修の同期は全国各地の大学から集まっていることも魅力です。仕事では切磋琢磨して悩んだり、休日は一緒に出かけたり、同期の存在ははとて大きいです。同期は約30人いて大所帯ですが、当センターは多くの症例に恵まれているため、疾患・手技のために症例の取り合いといったことは今まで経験ありません。指導医の先生方も様々なバックグラウンドを持っていらっしゃるの、自分の今後のロールモデル・将来像を描く上でも大変参考にさせていただいております。

当センターに見学に来ていただけたら、実際の雰囲気を感じていただけたと思います。ご不明な点がございましたら、また当センターでの研修に興味を持っていただけたら、気軽にご連絡下さい。



一般研修プログラム・外科専門医コース
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
福岡 謙徳先生



外科専門医コースの魅力と、当センターでの研修の雰囲気にについてご紹介します。

外科専門医コースは、新専門医制度の基本領域の中で「外科」を視野に入れて研修するプログラムです。外科専門医を取得する上で要となる消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科を必須で研修します。当センターは大学の附属病院ということもあり、手術件数が多いことはもちろん、commonな症例から比較的稀な症例まで多種多様な症例を経験できます。指導医も親身で教育熱心な先生が多く、手術手技や術後管理なども研修医のうちから経験をすることができました。経験した症例の学会

発表や論文作成の準備も丁寧にご指導いただき、発表する力や表現力も身につきます。また私自身は将来外科専門医取得を考えていますが、2年間の研修期間中に一定数の手術件数を経験することができるのが外科専門医コースを選択する1つのメリットであると思います。

当センターの全体の研修の雰囲気ですが、専門コースの垣根はなく、ほとんどの科で1年目と2年目が同時期に研修するため分からないことは先輩方が丁寧に教えて下さる環境です。特に救急当直(ER 当直)では初期には1年目と2年目がペアになり、当直対応にあたります。右も左も分からない1年目の初めは2年目の先生方がとても頼もしく感じ、大きな不安なく研修を始められました。当直対応は研修医が責任をもってアセスメント・治療を提示し、救急科の先生からフィードバックをもらえる環境が整っています。手技も上級医の指導のもとで多くできるため、経験を積むごとに自信にもつながります。

言葉では伝えきれない魅力がまだまだあります。是非一度当センターへ見学にいらしてください。お待ちしております。



一般研修プログラム・外科系専門診療科コース
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
新井 優希先生



初めまして、研修医2年目の新井優希と申します。まず、外科系専門診療科コースについて述べさせていただきます。

外科系専門診療科コースのメリット、それはオプションの数の多さに尽きます。これは元々皮膚科であったり泌尿器科etc…のような科に入ることを決めている方はもちろんですが、色々な科を吟味しその上で将来像を見極めたい方々にお勧めです。つまりは他のプログラムよりも自由度が高いというのがこのプログラムの魅力と言えるでしょう。例えば私の場合ですが、元々皮膚科を志望しているということもあり、集中的に皮膚科での研修をさせて頂いています。

次に研修医目線での当センターの魅力についてですが、大きく2つ述べさせていただきます。

まずは、同期の研修医の数についてです。当センターの研修医は一学年約30名おります。この人数は多すぎず、少なすぎず同期と共に研鑽することができるように考えております。事実私は他の同期とコミュニケーションを取る機会が多く感じており仕事の面はもちろん、プライベートでも仲良くしています。

次の魅力についてですが、当センターは大学病院である研究機関の側面と市中病院のような実践的な医療行為を行える側面を併せ持っているということです。では、具体的にどういった場面でこれらを実感するのかということを説明させていただきます。当センターでは総合回診のように研修医が主体となり症例発表を行う機会が設けられており、能動的に疾患について勉強できます。次に市中病院の側面ですが、例えば救急当直では指導医の監督の下、研修医が主体的に診療を行うことができます。手技に関してはもちろん疾患の鑑別においても主体的に行うことができ、シニアレジデントになる前に大きなステップアップができるのではと思います。

私の拙い文章ではございましたが、皆さんの進路について参考になれば幸いです。気になった方は是非一度当センターへ見学に来てみてください。

旭川医科大学	福島県立医科大学	昭和大学	北里大学	福井大学	三重大学	徳島大学	熊本大学
札幌医科大学	筑波大学	帝京大学	東邦大学	山梨大学	滋賀医科大学	香川大学	大分大学
北海道大学	獨協医科大学	東京大学	聖マリアンナ医科大学	信州大学	京都府立医科大学	高知大学	宮崎大学
弘前大学	自治医科大学	東京医科大学	東海大学	岐阜大学	和歌山県立医科大学	福岡大学	琉球大学
岩手医科大学	群馬大学	東京慈恵会医科大学	新潟大学	浜松医科大学	鳥取大学	産業医科大学	
秋田大学	埼玉医科大学	東京女子医科大学	富山大学	愛知医科大学	島根大学	久留米大学	
東北大学	千葉大学	日本大学	金沢大学	名古屋大学	川崎医科大学	佐賀大学	
山形大学	杏林大学	日本医科大学	金沢医科大学	藤田医科大学	山口大学	長崎大学	



小児科研修プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
石原 温子先生



当センターの特徴は出身大学に偏りがなく全国から集まっています。学閥がなく、真面目で勉強熱心な研修医が集まっており、レジデント室ではお互いに学んだことを教え合っています。指導医の先生方も教育熱心であり、分からないことがあっても相談しやすい環境が整っています。大学病院ですが、採血やルート確保の基本的な手技の機会が多く、やる気さえあればさらに難しい手技のチャンスも頂けます。

一般病棟では疾患の別に捉われず、あらゆる患者さんを診ることが出来ます。時には他チームの患者さんの検査に立ち会うことも出来ます。小児科の先生はどなたも優しく、子どもの採血や点滴の入れ方からエコーの当て方などを丁寧に教えてくださいます。小児科コースでは産科・ICUも必修としているので、小児だけでなく周産期医療や成人の病態も網羅的に学習できます。

救急当直は平均して月4回程度行います。慣れないうちは研修医一年目と二年目がペアになり、診察に当たります。研修医の裁量で検査、治療を組み立てていきますが、必ず指導医からのフィードバックがあり、一晩の当直からたくさん学ぶことがあります。

少しでも当センターに興味をお持ちの方は、ぜひ病院見学に来て病院や研修医の雰囲気を見て下さい。お待ちしております。



産婦人科研修プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
岡木 啓先生



産婦人科コースでは2年の初期研修期間のうち16週間を産婦人科で研修します。志望科を重点的にローテーションすることで自身の将来像がより明確になり、他科をローテーションするときによりしっかりと目標をもって研修することが出来ます。

産婦人科では病棟回診でショートプレゼンをしたり妊産婦の経腹エコーや手術の執刀・助手をしたりする機会があります。当センターは幅広い症例が集まる施設なので多くの学びを得ることが出来ます。プレゼンや手技、カルテ記載などの日常業務だけでなく、学会発表の機会もあり研修医1年目から症例報告をさせていただける環境にあります。私は初めての発表のときに何から手を付けばいいのかかわからず最初は不安でしたが、指導医の先生に

臨床経過のまとめ方や参考文献の探し方を一から教えていただき、なんとか発表することができとても良い経験となりました。

選択科目で任意の診療科で研修できるオプションという期間が8週間あります。当センターは規模の大きな病院であり様々な診療科があるため、オプションでは病理診断科や放射線科など産婦人科と関係の深い診療科を回ることができ将来につながる研修ができます。

当センターには教育熱心な指導医の先生が多くいらっしゃいます。日常の臨床で必要な知識や考え方を教えていただけるだけでなく、臨床でまだ解明されていないことやその解決策のヒントを示して下さいので学ぶ意欲がかきたてられ日々の臨床が楽しく感じられます。大学病院のため臨床情報の検索ツールは充実しており図書室には職員が常駐しているため、わからないことがあればすぐに調べることができ必要な情報が手に入る環境が整っています。診療科によっては抄読会が定期的開催されているところもあり、最新の知見に触れることができ刺激が得られます。

当センターでの初期研修は臨床面でも教育面でも総合的に充実したプログラムであると思います。ぜひ見学に来てください。



ホスピタリスト重視プログラム
ジュニアレジデント(2年目)(2019年入職)
高嶋 紗衣先生



ホスピタリストコースの魅力は、初期研修のうちに特色の違う2つの病院で研修できるところです。

自治医科大学附属さいたま医療センターは地域に根差した高度急性期病院であり、common disease から稀少症例まで多くを経験することができます。同期や上級医の人数も多く、様々な考えに触れる機会に恵まれていると思います。カンファレンスでプレゼンする機会も多く、週1回の総合回診は自身の症例発表の経験になるだけでなく、他科を回っている同期が学んだことも共有することができます。

さいたま市民医療センターは地域医療支援病院であり、直接来院やクリニックからの紹介、救急搬送など様々な経路で患者が来院します。自分が初療対応した患者さんの外来フォローや入院管理、退

院調整に関わることができ、最初から最後まで全人的に診療に関わることができます。また、毎朝内科医師全員でのカンファレンスがあるため、診療科を越えて患者さんの診療について議論することができます。診療科・職種間の垣根も低く、コンサルテーションが気軽にでき、多面的なフィードバックを受けやすい環境が整っています。

2つの医療機関で研修することで、患者さんが病院にかかるまで、外来フォローか入院かの判断とその後の診療、市中病院・高度医療機関でそれぞれできる治療を学ぶことができます。6年間の学んできた「医学」をさらに追及することを深く学べるのが高度医療機関であり、患者様の生活に寄り添って治療を組み立て、その後の経過を追ひ、緊急時にはすぐ相談できる場所となることで地域医療を支えていく「医療」に努めるのが市中病院だと感じました。どちらも臨床医を究めるために必要不可欠であり、もちろんどちらの病院でも双方を学べますが、それぞれを深く自身に落とし込んで学べるこのコースはとて有意義であり、自分のロールモデルを見つける一助にもなると思います。

志望科を決め切れずにいる方、大学病院か市中病院か悩んでいる方、総合診療医や家庭医を目指す方にはお薦めだと思います。ぜひ一度両病院に見学にいらしてください。



当センターを基幹病院とする専門研修プログラム作成状況

※掲載している内容は、2020年6月1日現在で予定・申請されているものです。今後の審査の状況等により、変更が生じる場合があります。

専門領域	プログラム名称	連携施設名
内科	自治医科大学附属さいたま医療センター 内科専門医研修プログラム	済生会川口総合病院、川口市立医療センター、 春日部市立医療センター、さいたま市民医療センター、 JCHO埼玉メディカルセンター、JCHOさいたま北部医療センター、 さいたま赤十字病院、彩の国東大宮メディカルセンター、 博仁会共済病院、深谷赤十字病院、秩父市立病院、小鹿野中央病院、 自治医科大学附属病院、練馬光が丘病院、南魚沼市民病院、 南魚沼市立ゆきぎに大和病院、東京大学医学部附属病院、 秩父市立大滝国保診療所、北里大学病院、望星会望星病院、 東京通信病院、東京都健康長寿医療センター、 国立精神・神経医療研究センター病院、東京北医療センター、 日高病院、高崎ハートホスピタル、公立学校共済組合関東中央病院
小児科	自治医科大学附属さいたま医療センター 小児科専門医研修プログラム	さいたま赤十字病院、自治医科大学附属病院
外科	自治医科大学附属さいたま医療センター 外科専門医研修プログラム	春日部中央総合病院、さいたま市立病院、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、秩父市立病院、 仙台市医療センター（仙台オープン病院）、 JCHO東京新宿メディカルセンター、かみいち総合病院、 練馬光が丘病院、東北大学病院、横浜市立みなと赤十字病院、 横須賀市立うわまち病院、白河厚生総合病院、菅間記念病院、 自治医科大学附属病院、埼玉県中央病院、 JCHOさいたま北部医療センター、博仁会共済病院、 行田総合病院、富山大学病院
皮膚科	自治医科大学附属さいたま医療センター 皮膚科専門医研修プログラム	さいたま赤十字病院、JCHOさいたま北部医療センター、 春日部中央総合病院、東京慈恵会医科大学附属病院、 さいたま市民医療センター、指扇病院
産婦人科	自治医科大学附属さいたま医療センター 産婦人科専門医研修プログラム	埼玉協同病院、かしわざき産婦人科、自治医科大学附属病院、 佐野厚生総合病院、足利赤十字病院、大宮レディースクリニック、 丸山記念総合病院、名瀬徳州会病院
眼科	自治医科大学附属さいたま医療センター 眼科専門医研修プログラム	自治医科大学附属病院、JCHOさいたま北部医療センター、 東京女子医科大学糖尿病センター、日本大学医学部附属板橋病院
放射線科	自治医科大学附属さいたま医療センター 放射線科専門医研修プログラム	獨協医科大学埼玉医療センター、上尾中央総合病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、自治医科大学附属病院
麻酔科	自治医科大学附属さいたま医療センター 麻酔科専門医研修プログラム	埼玉県立小児医療センター、さいたま赤十字病院、 北里大学メディカルセンター、横須賀市立うわまち病院、 昭和大学附属病院、自治医科大学附属病院、 埼玉医科大学総合医療センター、さいたま市民医療センター、 練馬光が丘病院、東京ベイ・浦安市川医療センター
病理	地域総合病理医育成を目指した自治医科大学 附属さいたま医療センター病理専門 研修プログラム	埼玉協同病院、さいたま赤十字病院、水戸協同病院、 焼津市立総合病院、虎の門病院、自治医科大学附属病院、 東京都保健公社多摩南部地域病院
救急科	自治医科大学附属さいたま医療センター 救急科専門医研修プログラム	さいたま市民医療センター、さいたま赤十字病院、 彩の国東大宮メディカルセンター、上尾中央総合病院、 川越救急クリニック、埼玉医科大学総合医療センター、 日本大学医学部附属板橋病院、千葉西総合病院、埼玉石心会病院、 秩父市立病院（関連施設）
総合診療	自治医科大学附属さいたま医療センター 総合診療専門医研修プログラム	済生会川口総合病院、さいたま市民医療センター、 JCHOさいたま北部医療センター、 彩の国東大宮メディカルセンター、博仁会共済病院、 明医研ハーモニークリニック、深谷赤十字病院、秩父市立病院、 小鹿野中央病院、南魚沼市立ゆきぎに大和病院
耳鼻咽喉科	自治医科大学附属さいたま医療センター 耳鼻咽喉科専門医研修プログラム	さいたま市民医療センター、東京北医療センター、 埼玉県立がんセンター、自治医科大学附属病院、東北大学病院



専攻医・大学院生からのメッセージ

内科専攻医（腎臓内科シニアレジデント）

2016年度初期研修修了

湊 さおり先生



私は当センターでの初期研修を終えた後、当センターの腎臓内科に入局し、今年で4年目になります。研修当初は、腎臓内科へ進もうとは考えておりませんでした。2年間の研修でいろいろな科をローテーションしていく中でさまざまなことを学び、腎臓内科へ興味を持つようになりました。私の話が少しでも当センターで研修するきっかけになれば嬉しいです。

初期研修2年間で振り返ると、同期と一緒に過ごした時間が長く1番思い出に残っています。一緒に働く上で同期の存在は大きく、辛いときもお互い励ましあいながら、支えあい切磋琢磨しながら日々研修していたことを思い出します。勉強熱心な同期が集まっており、お互い高めあいながら良い環境で研修生活を送れたと思います。

私が当センターの専門研修に進んだ1番の理由は、この病院・科の雰囲気惹かれたからです。2年間この病院で研修をして思ったことは、どの科の先生方も教育熱心で、時に厳しいこともありました。優しく丁寧に指導をして下さいました。患者さんへの対応も丁寧で、仕事熱心であり、私もこの病院に残ってこの環境で引き続き勉強させていただき、上級医の先生方のような医師になりたいと思うようになりました。

現在は当センターの腎臓内科に入局し、週1回の外来業務と主に病棟の仕事を担当しています。病棟に入院している患者さんを受け持ち、上級医の先生方や同僚・研修医の先生とともに診療にあたっています。研修医のときとは異なり、今は自分が研修医を指導する立場となり、出来る限りの指導をしています。まだまだ医師として未熟な部分もたくさんある中で、研修医への指導は自分の勉強にもなりますし、上手く指導できているのか不安になることもありますが日々奮闘しながら頑張っています。

当センターの研修に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。是非一度見学にいらしてください。

泌尿器科専攻医（シニアレジデント）

2019年度初期研修修了

嘉指 公輔先生



2年間の初期研修を経て、継続して当センターで従事させていただくことになったのは、まずは診療科の垣根の低さであったと思います。

初期研修のローテーションでお世話になった先生方には、コンサルテーションでも快く相談に乗ってください、時には進路の相談にも乗っていただきました。今回僥倖ながらこの文章を書かせていただいているのも、消化器一般外科ローテーション中にお世話になった先生方のご推薦を頂いたという流れでした。専攻医として働く中で、専攻分野はもちろん、その他の分野についても臨床上に悩むシーンは数多くあります。お忙しい中でも気軽に相談に乗っていただける諸上級医の先生方の存在は、非常にありがたく、心強いものです。垣根の低さ故なのか、自身の専攻分野以外の知識にも明るい先生方も数多くいらっしゃいます。コンサルテーションを通して自身の専攻分野以外について日々勉強になることも、非常に面白い点だと感じます。

泌尿器科に限ったことではありませんが、若手に多くの機会を与える雰囲気があることも魅力の一つです。手厚いバックアップと、丁寧なフィードバックがあることで、独学による荒削りな知識や技術ではなく、ゴールドスタンダードを着実に身に付けられる環境があると思っています。他病院に勤務する大学の同期と比較して、着実に早期にかつ多くの貴重な症例を経験し、学ばせていただいていると自負しています。

このような環境だからこそ、多くの初期研修医がそのまま専攻医として勤務しています。私達の学年は17人が継続して勤務しています。共に切磋琢磨し、同じ困難や苦悩を乗り越えていた仲間達は、専攻医として各診療科に散らばった今でも、気軽に相談したり、お互いの存在を意識しモチベーションになったりするよきライバルでもあります。

初期研修を選択する際に、専門研修のイメージをするのは難しいかもしれませんが、皆さんの進路選択の参考になれば幸いです。一緒に診療に当たれることを楽しみにしています。

外科系

博士課程3年目（2018年入学）

田巻佐和子先生



「癌で苦しむ患者さんの助けになりたい」そう思って学生の頃からの夢である外科医を目指し、2011年震災直後の春、当センターで初期研修を開始しました。その気持ちは変わることなく、今年で卒業10年目になりました。

外科と決めているから、どんな手術に参加して手技を磨きたい。でも外科と決まっていますが、その前に1人の医師。内科全般についての深い知識も得たい。初期研修のマッチングの際には様々な思いが交錯しました。当センターの外科コースの魅力は外科専門医取得を視野に入れたカリキュラムですが、逆に内科をローテートする期間が短くなってしまうことに不安を感じたのです。ですが、実際に見学に来て、どの科でも熱心な指導の様子をみて、後期研修も視野に入れて当センターで研修することを希望しました。震災直後に開始した研修は、良い仲間、良い指導医に恵まれ、充実した2年間となりました。初期研修が終わって8年経ちますが、ここで研修してよかったと思っています。

卒業3年目にそのまま一般・消化器外科に入局しました。各臓器チームのローテートや横須賀・東京・仙台と様々な関連病院へ行き多くの経験を積むことができました。腹腔鏡手術も多く経験でき、ダヴィンチ手術にも携わることができ、今後の専門領域は大腸にしたいと考えています。

外科は手術がメインの診療ですが、再発・切除不能癌患者の化学療法、緩和ケアなどにも同時に従事します。特に大腸癌の再発・切除不能癌の治療成績は抗がん剤の発展とともに、予後が改善して来ています。しかし中には、抗癌剤の治療効果が乏しい患者さんもあります。大腸癌MSI-high患者の抗がん剤治療では、特に無力だと感じることもありました。そんな折に、外科の大学院の先輩医師から、実臨床に直結した研究を行っていることを知り、研究への興味が湧きました。当科での研究内容は、エピゲノム制御の破綻から生じる染色体不安定性や発癌機構についてであり、研究を行うことで、がんに関するより深い知識や論理的思考を身につけることができるのではないかと考えました。

現在、大学院では染色体不安定性と薬剤感受性についての研究を行っています。マウスの大腸癌細胞株に遺伝子導入を行い、抗癌剤などの薬剤の効果を見る研究です。遺伝子導入の手法は、本院の構造生化学教室で指導していただいています。また、患者の血液から採取した末梢循環腫瘍細胞を解析して、遺伝子変異と薬剤の効果との関連について、企業との共同研究も行っています。

全ての臨床医が大学院へ進学するわけではありませんが、実際に大学院で研究をしていた先輩医師の話聞くこともできる環境にいないと、大学院への進学を考えるのは、なかなか難しいことだと思います。初期研修の研修病院を探す段階で、大学院のことまで考えが及ばないかもしれませんが、ぜひ2年間の研修に留まらず、その先のキャリア形成まで考えてみてください。もし何も決まっていない、わからない、というのであれば、ほぼ全廃して、大学院まである当センターをお勧めします。

本来、病院選びはまず実際に気になる病院に行ってみることから始まると思います。コロナ禍で難しい状況ですが、収束しましたら、ぜひ研修の様子を見に来てください。お待ちしております。

募 集 要 項

募集人員

○一般プログラム 24名 ○小児科プログラム 2名 ○産婦人科プログラム 2名
○ホスピタリスト重視プログラム 2名

応募資格

ジュニアレジデント（医療法第16条の2第1項に規定する臨床研修）

- ・2021年3月に大学医学部または医科大学を卒業見込みの者
 - ・2021年3月以前に大学医学部または医科大学を卒業し、2021年に医師免許を取得見込みの者
 - ・2021年3月以前に医師免許を取得し、（初期）臨床研修を未実施の者
- 上記いずれかの条件を満たし、マッチングシステムに参加登録する者

試験日程

2020年8月17日(月)・8月18日(火)・8月20日(木)
2020年8月24日(月)・8月25日(火)・8月27日(木)・8月28日(金)

受付期間

2020年7月1日(水)～2020年8月7日(金)（当日必着）
※上記予定には変更が生じることがあります。
詳細は当センターホームページをご確認ください。

方 法

面接試験

出願書類等

下記書類を一括して封筒に入れ郵送してください。

- (1) 医師臨床研修申込書（学歴は高校卒業時から記入）、写真貼付
（当センター所定の書式による・ホームページからダウンロード可能）
連絡先については日中連絡のできる電話番号をお書きください。
- (2) 卒業見込証明書
- (3) 成績証明書（厳封）
- (4) 共用試験（CBT）成績表写し

※再試受験者は、本誌・再試とも成績表写しをご提出ください。

送 付 先

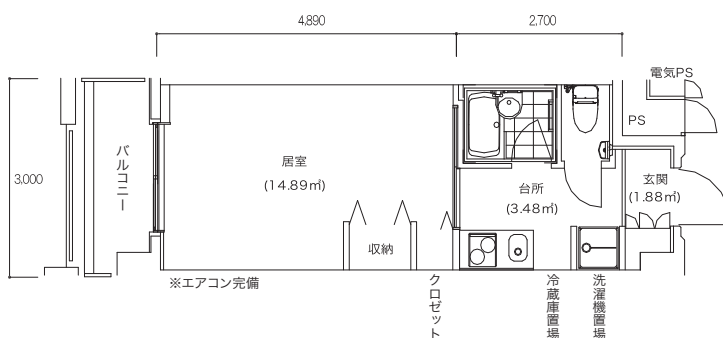
※〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847
自治医科大学附属さいたま医療センター
卒後臨床研修室 まで
TEL.048-648-5225（卒後臨床研修室直通）
mail : rinshoukenshu2@omiya.jichi.ac.jp

身分及び待遇

- | | |
|---------|---|
| ① 身分 | さいたま医療センター職員 |
| ② 給与 | 1年次：約42万円/月 2年次：約48万円/月（時間外手当含む）
賞与（1年次：約42万円/年 2年次：約67万円/年） |
| ③ 当直料 | 1年次：1.5万円
2年次：2.5万円 |
| ④ 社会保険 | 日本私立学校振興・共済事業団 |
| ⑤ 宿舎 | 教職員住宅完備（下の写真参照）※世帯用もあります。 |
| ⑥ 福利厚生等 | 日光研修所、北軽井沢山荘、院内保育所、
フィットネスクラブ（法人会員）、食事料補助 3,500円/月、
学会旅費支給（上限あり）、院内表彰制度（優秀レジデント賞）あり、
勤務医師賠償責任保険（補償額2億円）に加入。
※初期研修の2年間は、当センターにて保険料（年額51,570円/人）を負担します。 |



ジュニアレジデント用宿舎
（単身者用、第10職員住宅）



ジュニアレジデント用宿舎 平面図（単身者用、一例）

研修内容説明会

第1回 2020年7月18日(土) 13:00～

第2回 2020年8月1日(土) 13:00～

※事前に参加申込をお願いします。

※上記予定には変更が生じることがあります。

詳細は当センターホームページをご確認ください。

実習生・見学生

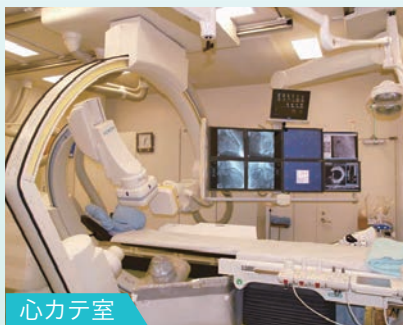
実習生・見学生を随時受け入れしておりますので、関心のある方はご連絡ください。

※連絡先については前ページ参照

センター内の紹介



MDCT室



心カテ室



オペ室



図書室



ドクターカー



管理・研究棟



ホスピタルアート



南館

本館

外来ゾーン



医師室



みぬま (レストラン・外来棟)



プリムローズ (レストラン・南館7階)



ファミリーマート



エネルギー棟

外来棟

福利厚生施設



日光研修所



北軽井沢山荘



院内保育所



第11職員住宅

センターの概要

センター長	遠 藤 俊 輔
副センター長	藤 田 英 雄
	讃 井 将 満
	遠 山 信 幸
	鈴 木 聡 子



オリエンテーション（ICLS講習会）の様子

■病床数 628床

■患者数等（令和元年度） 外来 1日平均 1,443人
入院 1日平均 523人
手術件数 7,058件
救急車年間搬送数 7,635件

■職員数（2020年4月1日現在）

医師	348人
（内レジデント187人）	
看護師	846人
医療技術職員	236人
事務職員・その他	124人
合計	1,554人

■標榜診療科

内科・循環器内科・小児科・外科・脳神経外科・
心臓血管外科・整形外科・泌尿器科・眼科・
耳鼻咽喉科・産婦人科・皮膚科・形成外科・
リハビリテーション科・麻酔科・放射線科・
精神科・歯科口腔外科・病理診断科・救急科

ACCESS



◎国際興業バス ●大宮駅東口から約1.8km（約10分）

4番乗場（大11） 自治医大医療センター行き → 「自治医大医療センター」下車
※平日朝7:02～17:48まで約12分毎に往復運転

7番乗場（大04-2） 大谷県営住宅行き（新道経由）→ 「自治医大医療センター」下車

7番乗場（大02-2） 浦和学院高校行き（新道経由）→ 「自治医大医療センター入口」下車

自治医科大学附属さいたま医療センター

〒330-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847 TEL.048-648-5225（卒後臨床研修室直通）

<http://www.jichi.ac.jp/center/sotsugo/index.html>